

事 務 連 絡

令和5年7月31日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校主管課
附属学校を置く各国立公立大学法人担当課
小中高等学校を設置する学校設置会社を
所管する構造改革特別区域法第12条第
1項の認定を受けた各地方公共団体担当課

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

不登校児童生徒の支援に係る情報提供等について

令和3年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、不登校児童生徒が小学校及び中学校で約24.5万人、高等学校を合わせると約30万人に上り過去最高となったことを受け、本年3月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を取りまとめるとともに、令和5年3月31日付「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について（通知）」（以下、「COCOLOプラン通知」とする。）を発出し、保護者への情報提供の在り方や学校風土の「見える化」に関する取組の推進を案内していたところです。

また、令和5年7月21日には総務大臣から文部科学大臣宛に「不登校・ひきこもりのこどもの支援に関する政策評価の結果（意見の通知）」が示され、不登校児童生徒の支援に当たり、教育相談体制の整備や学校外施設の支援情報の提供不足等が指摘されたところです。

これらを踏まえ、児童生徒課では、教育委員会等の取組をさらに推進すべく、不登校児童生徒の保護者への支援に活用可能な教育・相談機関等の情報をまと

めて提示するための様式例（別添1）を作成するとともに、学校の風土等を把握するためのツール（別添2）を整理いたしました。

また、令和5年7月10日に発出いたしました「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」において、一人一台端末を用いたアプリ等の健康観察・相談窓口システム一覧（別添3）を更新いたしました。

つきましては、本内容について、都道府県・指定都市教育委員会にあっては所管の学校及び地域の市区町村教育委員会に対して、都道府県私立学校主管課にあっては所管の私立学校に対して、国公立大学法人にあっては設置する附属学校に対して、株式会社立学校を認定した地方公共団体にあっては認可した学校に対して、周知をお願いいたします。

記

1. 不登校児童生徒の教育・相談機関の情報提示様式例

不登校児童生徒の保護者が悩みを抱えて孤立しないように、適切な情報把握や支援を受けられるようにすることが重要です。そのため教育委員会等においては、別添1を活用いただき、域内の教育支援センターや相談機関、保護者の会、フリースクール等の民間施設等に関する情報を整理し、保護者に提供するようお願いいたします。

保護者に提供する情報については、教育委員会等の判断によるのですが、令和元年10月25日「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」における別記1「義務教育段階の不登校児童生徒が学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けている場合の指導要録上の出欠の取扱いについて」及び「民間施設についてのガイドライン（試案）」等を御参考ください。

その際に、教育委員会等におかれては、民間施設等とも積極的に連携しながら、地域の支援機関等を把握し、必要な情報をわかりやすく提示できるよう例えば、各教育委員会等において作成するハンドブックやホームページ等にて周知していただくようお願いいたします。

なお、この様式は、保護者に対する情報提供のための参考としてお示しするものであり、必ずしもホームページの改修やハンドブック作成等を求めるものではありません。

2. 学校風土の「見える化」のツール

COCOLO プラン通知に基づき、学校の風土等を把握するための具体的なツールや導入に当たっての効果、実践事例等を整理いたしましたので、別添2のとおり送付いたします。

各教育委員会等の事情に応じて、こうしたツールも御参考いただきながら、学校生活の安心感等の学校の風土や雰囲気把握し、関係者が共通認識を持つて取り組むことにより、安心して学べる学校づくりを進めるための取組を推進いただきますようよろしくお願いいたします。

【本件担当】

文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室
生徒指導第一係

電 話：03-5253-4111（内線：3299）

E-mail：s-sidou1@mext.go.jp

不安や困りごと、ありませんか？



学校に行きたがらない

- 学校から帰ってくるといつも疲れている
- 学校に行こうとすると頭やお腹が痛くなる
- 家や自分の部屋から出たがらない

子どもへの接し方が分からない

- 子どもに学校に行くよう働きかけてよいか
- 学校に行かない理由を聞いてよいか
- 理由を聞いてもよく分からない／答えたがらない
- 家庭学習を続けるべきか
- 誰にも相談できない

心配な状態が続いている

- ゲームやSNSに没頭して昼夜逆転している
- 学習の進度が遅れ、学校の授業についていけない
- このままでは、将来、進学や就職できないのでは

一人で悩まないでください。

不登校は誰にでも起こり得ることです。

お子さんや保護者の方の周りには、行政・民間の様々な支援の輪が広がっています。このパンフレットでは、不登校等学校が苦手なお子さんの保護者の方の相談先などについてご紹介します。

教室や家庭以外にも

多様な学びの場や支援の仕組みがあります。

不登校の児童生徒のための相談や学習の場、
保護者の方を支援する様々な制度やサービスがあります。

まずは、学校・教育委員会に相談

①教育委員会(不登校相談担当)

お子さんの不登校が続く場合等学習や生活に不安がある場合は、まずは、教育委員会の不登校相談担当まで御相談下さい。学校生活の悩みの相談や、学校内外の学びの場や相談機関を紹介します。

紹介・接続

②保護者の会

不登校のお子さんを持つ保護者同士が、情報交換を行ったり不安や悩みを共有したりすることができます。

③教育支援センター

各地域の教育委員会が開設していて、一人一人に合わせた個別学習や相談等を行います。公共施設の中にあることが多く、利用料は基本的に無料です。

④フリースクール等

学校や教育支援センター以外の、日中の時間帯に不登校の子供が学習をしたり、興味のあることに取り組んだりできる場所です。一定の要件を満たせば、在籍校での出席認定や成績評価の対象になります。

⑤不登校特例校

通常の学校に行きづらいお子さんのために、通常の学校より授業時間数が少ないなど、柔軟に学ぶことができる学校(小・中・高等学校等)のことです。

⑥夜間中学

学齢期を過ぎた方が夕方から夜にかけて通う中学校のことです。学齢生徒についても、一定の要件を満たせば、在籍校での出席認定や成績評価の対象になります。

⑦その他関係機関

また、学校内にも落ち着いて過ごせる場所や相談に乗ってくれる専門家がいます。これらの教室の利用や相談を希望する場合は、各学校や教育委員会にお問合せください。

学校

校内教育支援センター

学校には行けるけれど自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる、学校内の空き教室等を活用した居場所のことです。

お子さんのペースに合わせて相談に乗ってくれたり学習のサポートをしてくれます。

スクールカウンセラー

児童生徒の心のケアや、ストレスへの対処法心理の専門家で、教育委員会から学校などに派遣または配置される方のことです。

公認心理師や臨床心理士などの資格を持っている方が多いです。

スクールソーシャルワーカー

児童生徒やその保護者に福祉・医療的な支援が必要な場合に、福祉の窓口につないでくれたり、手続きの補助などをしてくれたりする福祉の専門家で、教育委員会から学校などに派遣または配置される方のことです。社会福祉士や精神保健福祉士などの資格を持っている方が多いです。



困ったときは相談してください。

不登校に関する相談窓口

①不登校に関する相談窓口

名称	概要	問合せ先
教育委員会 XX課●●係	不登校に関する相談全般	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
	教育支援センターの利用相談	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
●●センター	子ども本人からの電話相談	TEL : xxx-xxxxxxx (●曜日、●曜日、●曜日12:00~20:00)
XXセンター	私立学校に在籍する児童生徒の不登校に関する相談	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
●県教育委員会 X課■係	高等学校に在籍する生徒の不登校に関する相談	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx

②不登校の保護者の会

名称	概要	連絡先
●●の会	●●地区の保護者を中心とした会です	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
●●親の会	発達障害のある不登校の子供の親の会です	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx



学びたいと思ったときはご連絡ください。

不登校児童生徒の学びの場・居場所

③教育支援センター

名称	概要	問合せ先
〇〇教室	小集団の活動や個別学習を行います。 ※通所の他にオンラインによる支援も受けられます。	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
△△ルーム ※NPO法人〇〇が運営	参加者同士の交流や、参加者の希望を踏まえた活動を行います。	TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx

④フリースクール・フリースペース

名称	概要	連絡先
フリースクール 〇〇		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
△△ フリースクール		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
フリースペース 〇〇		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
△△ フリースペース		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx

⑤不登校特例校

名称	概要	問合せ先
〇〇市立 △△中学校		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
学校法人XX学園 △△高等学校		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx

⑥夜間中学

名称	概要	問合せ先
〇〇市立 △△中学校 夜間学級		TEL : xxx-xxxxxxx(平日13:00~20:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
〇〇市立 △△中学校 夜間学級		TEL : xxx-xxxxxxx(平日13:00~20:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx

困ったときは相談してください。

その他の相談窓口等

○子育てに関する相談窓口

名称	概要	問合せ先
		TEL : xxx-xxxxxxx (●曜日、●曜日、●曜日12:00~20:00)
		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx

○子どもの発達に関する相談窓口

名称	概要	問合せ先
		TEL : xxx-xxxxxxx (●曜日、●曜日、●曜日12:00~20:00)
		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx

○経済的負担の相談窓口

名称	概要	連絡先
		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx
		TEL : xxx-xxxxxxx(平日10:00~17:00) 〒 : ●●市 xxx-x-x URL : https://www.xxxxxxxxxxxxxx



COCOLO
プラン3

学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

学校風土の把握ツール

目次



01.背景

02.学校評価について

03.学校風土の把握とは

04.利用者の声

05.ツール紹介

①Q-U/hyper-QU

②i-check(アイ・チェック)

③ASSESS(アセス)

④シグマ検査

⑤子どものための「学校風土調査」

06.試験的な導入等

07. 関連通知の紹介

01.背景

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」(令和5年3月31日)

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える
2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
3. 学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

① 学校の風土を「見える化」

学校評価の仕組みを活用して、児童生徒の授業への満足度や教職員への信頼感、学校生活への安心感等の学校の風土や雰囲気把握し、学校運営を改善します。
このため、風土等を把握するためのツールを整理し、全国へ示します。

- ② 学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善
- ③ いじめ等の問題行動に対しては毅然とした対応を徹底
- ④ 児童生徒が主体的に参加した校則等の見直しの推進
- ⑤ 快適で温かみのある学校としての環境整備

Comfortable,
Customized and
Optimized
Locations of learning

COCOLOプラン

令和5年3月

文部科学省HP「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1397802_00005.htm

02.学校評価について

制度概要

平成19年の学校教育法及び同施行規則改正により規定。

【目的】

各学校が自らの教育活動等の成果や取組を不断に検証することにより、

- ①学校運営の組織的・継続的な改善を図ること、
- ②各学校が保護者や地域住民等に対し、適切に説明責任を果たし、その理解と協力を得ること、
- ③学校に対する支援や条件整備等の充実につなげること

	内容	法令上の位置づけ	
自己評価	●各学校の教職員が自ら行う評価	●実施の義務 ●評価結果の設置者への報告の義務	●公表の義務
学校関係者評価	●保護者、地域住民等の学校関係者が、自己評価の結果を踏まえて行う評価	●実施の努力義務 ●(実施した場合)評価結果の設置者への報告の義務	●公表の努力義務
第三者評価	●外部の専門家により、専門的視点から行う評価	—	

文部科学省の取組

- 各学校や設置者の取組の参考となるよう**学校評価ガイドラインを策定**(平成22年7月)。
- 学校評価の充実・改善に関する調査研究を意欲ある教育委員会等に委託し、**実践的な取組例を取りまとめ、普及**。(平成25年度:8教育委員会)
- 小中一貫教育を実施する学校における学校評価の留意点を盛り込んだ学校評価ガイドラインを改定(平成28年3月)。

教育委員会に求められる役割

①明確な方針の策定

- 明確な**学校教育に関する方針を策定**し、各学校の評価目標との関連を図る
- 各学校の創意工夫に満ちた**主体的な取組を尊重しつつ、統一的な様式や共通評価項目、スケジュール等を例示**するなど、各学校の取組を推進する

②学校評価に関する好事例の普及と人材育成

③評価結果を踏まえた学校運営の改善・充実

- 各学校の学校評価が適切に行われているか検証**し、学校評価を通じた学校運営改善が円滑に進むよう必要な**指導・助言**を行う
- 学校評価の結果等を踏まえ、**学校に対する支援や条件整備等の改善**を行う

各学校における取組の充実

実効性の高い評価とは、教育活動や教育水準の向上、子供の成長につながっているという**有用感のある取組**。そのための参考となる学校による取組例として以下がある。

(1)学校内における取組の充実

- ①学校評価における目標の系統化・重点化
- ②全教職員の参加と協働による学校評価の実施
- ③効率的・効果的な学校評価を行う体制づくり(ICTの活用、学校事務職員の活用等)

(2)学校関係者との連携、協働の推進

- ①情報提供の充実による学校への理解促進と連携強化(HPの充実、学校に触れる機会の提供等)
- ②学校関係者評価委員会の運営の工夫等(学校の現状や課題、改善の手立ての明示等)
- ③**外部アンケート等の工夫(項目の精選、学校の持つ指標・データと対比して活用等)**

児童生徒・保護者対象のアンケート(外部アンケート等)

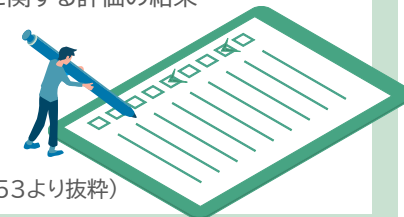
- 自己評価を行う上で、児童生徒や保護者、地域住民を対象とするアンケートによる評価や、保護者等との懇談会を通じて、授業の理解度や保護者・**児童生徒がどのような意見や要望を持っているかを把握することが重要である。**
- (略)アンケート等については、**学校の自己評価を行う上で、目標等の設定・達成状況や取組の適切さ等について評価するためのものにとらえることが適当**であり、学校関係者評価とは異なることに留意する。

[評価項目・指標等を検討する際の視点となる例]

■教育目標・学校評価

○学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況

- 児童生徒・保護者の満足度の把握の状況
- 教育相談体制の整備状況、児童生徒・保護者の意見や要望の把握・対応状況
- 授業など学校に対する評価が実施されている場合、評価を行った児童生徒・保護者の匿名性の担保への配慮の状況
- (データ等)児童生徒・保護者による授業などに関する評価の結果



(学校評価ガイドライン[平成28年改訂]P.4、P.52～53より抜粋)

03.学校風土の把握とは

COCOLO
3
学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

児童生徒がアンケート調査等に回答する。

(質問例)

- 自分にはいいところがあると思いますか。
- 不安や悩みを相談できる先生はいますか。
- スマートフォン等で友達とメールやSNS(LINEなど)でのやり取りをすることがありますか。
- 睡眠時間は平均してどのくらいですか。
- あなたのクラスではみんなが掃除当番や係の仕事を責任をもってしていますか。
- SNS上で仲間外れにされたり、ひどいことを書かれたことがありますか。
- 将来の夢や目標はありますか。
- 授業中、難しい、ついていけないと不安になることはありますか。

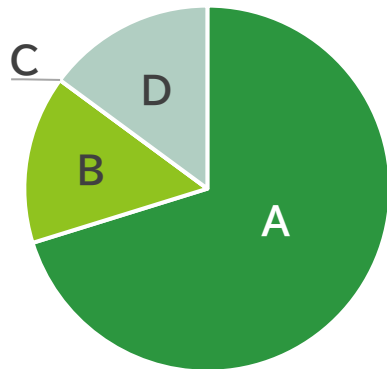
- 教職員の経験年等や考え方等に左右されず、エビデンスのある分析に基づいた対応方針を立てることができる。
- 教育実践を振り返り、修正する手立てとなる。
- いじめ等の諸課題を早期に発見し、不登校を予兆する等、困難を抱える児童生徒を早期に支援することにつながる。
- 児童生徒一人ひとりの心身の状況、学校生活への安心感、喫緊の課題やSOS、学級や学年の雰囲気や傾向が分かる。
- 児童生徒の見えていなかった長所や得意を発見できる。
- 児童生徒が抱える課題の詳細が分かり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家等との連携につながる。



実施状況 (令和5年2月時点 児童生徒課調べ)

学校では、学校が生徒にとって生活しやすい風土雰囲気であるかを把握するための生徒に対するアンケート等を実施していますか。

アンケートツール例



Q-U/hyper-QU
子どもの満足感や意欲、集団の雰囲気などを把握し、いじめ・不登校対策や学力向上等に活用できる。

i-check
「レーダーチャート」「散布図」等で、学年やクラスの状況を視覚的に把握。教科学力とのクロス集計も可能。

ASSESS
学習状況や友人関係、本人のソーシャルスキルなど、6領域学校環境適応感尺度で構成されたシートを活用できる。

シグマ検査
学校生活だけではなく、学習・家庭・心身の状態を多面的に調査し、生徒の実態を詳細かつ的確に分析する。

学校風土調査
エビデンスに基づき学校風土を4側面で評価する。課題と強みを明らかにできるWeb調査ツール。

- A : 全ての学校でアンケート等を実施している (学校や教育委員会独自作成のものも含む)
- B : アンケート等を実施している学校がある
- C : アンケート等を実施している学校はない
- D : 教育委員会では把握していない

クラスの概要

出典:i-check(東京書籍株式会社)

クラス全体の結果一覧表

【レーダーチャート】
カテゴリごとに、クラスの状況を把握します。

【名簿】
散布図や度数分布の各カテゴリの回答状況を、個人ごとに示しています。

【個人の心の安全】
散布図から、支援を要する子どもを見つけます。

【クラスの成長力】
散布図から、クラス全体の傾向と課題を読み取ります。

【学級の絆】
度数分布で子どもたちが自分のクラスのことを素直にどう感じているのかを確認します。

個人の分析

集団の分析

クラス愛

04.利用者の声

実施効果等

教育実践を振り返る機会

- 調査結果を受けて担任等が授業力向上に取り組んでおり、互いの指導力を高め合う中で、職場の同僚性も高まった。
- 生徒の声や実態を正確に反映したデータベースに裏打ちされた実践ができた。
- 自分のクラスの強みと課題が明確になり、何となく感じていたことや自分自身の課題、子どもたちが思っていることがはっきりとした。

経験値等によらない客観的なデータ把握

- ベテランも若手もそれぞれの課題を把握することができ、管理職としてアドバイスがしやすくなった。
- これまで抽象的な表現をするしかなかった取組を数値化でき、具体的な目標として提示することができるようになった。

見えなかったものの見える化

- 学校では楽しそうなのに、生活満足感等が低い子どもの原因は何か探るきっかけになった。
- 学校生活以外の悩みが分かり、早期対応につながった。
- 転勤当初の4月、域内の全学校が導入している共通の調査結果が見ながら、前任校の傾向等と比較しながら学級や学校の様子を把握できた。

その他

- 学校独自のアンケートではあまり答えてくれなかった生徒が、当該ツールのアンケートでは本音を回答してくれた。
- オンライン解説会が分かりやすく、指導方法の参考になった。



活用場面

学校運営、学級運営

- 結果を学年で分析し、授業の在り方や学級経営の指針作りに活用するとともに、学校全体で各学年の傾向を共有している。
- 1回目の実施では、現状から学級経営や学校経営の方針決定や具体策の検討に利用している。年度末の2回目はその効果測定と次年度の学校経営に活かすことを目的としている。

働き方改革

- 年度当初の個人面談の代わりにしている。広く深く生徒の状況が把握でき、かつ客観性があるため大変効率的である。
- 個人票を教職員で共有・分析する中で、担任外の専科教職員との連携やスクールカウンセラー等との役割分担を明確にしている。

年度末、年度初め

- 年度末のクラス替え資料としている。
- 新1年生は、実態を把握するために入学してから早い段階で実施している。
- 前担任が転勤していない際など、子どもの様子を詳しく聞けない状況もあるが、生徒用個人票を見て対応を検討している。
- 人事を考える上で、学校ごとの特徴や課題等を参考にしている。

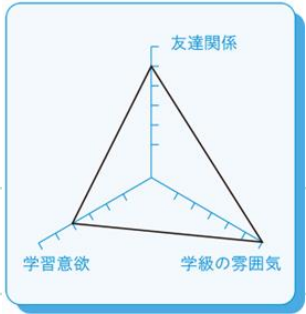
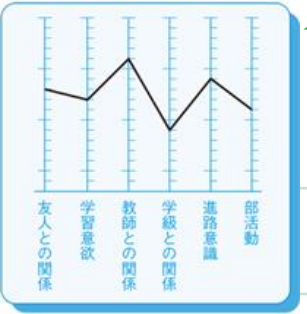
保護者との連携

- 個人面談で保護者と個票の内容を確認し、長所や良いところを伝えている。
- 家庭の様子や生活習慣についての気になる部分を、担任の見立てを補完するものとして活用している。
- 保護者としては、我が子が通う学校の特徴がわかりやすかった。こうしたデータを公表し、学校環境の向上に努めている学校に好感を持たた。

チーム学校

- 調査結果から学年の傾向を分析し、これまでの取組と今後の重点課題を学校運営協議会等で示しており、地域全体で子どもを見守る意識を育てている。

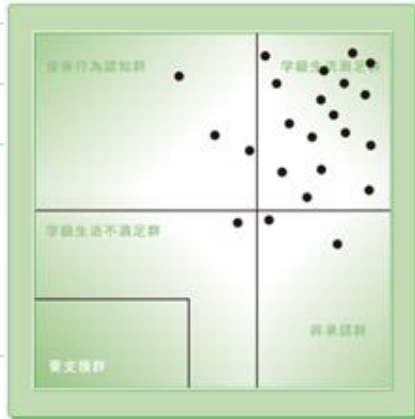
05. ツール紹介① Q-U / hyper-QU

<p>特徴</p>	<p>Q-Uは①「学校生活意欲」、②「学級満足度」の2つの尺度から、hyper-QUは①「学校生活意欲」、②「学級満足度」、③「ソーシャルスキル尺度」の3つの尺度から構成されており、子どもたちの学校生活における満足度と意欲、さらに学級集団の状態を調べることができるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> • QUは標準化されていて、妥当性と信頼性が保証されている。 • 充実したアフターフォローがある(解説書籍、協力団体である日本教育カウンセラー協会をはじめとした各地のQU講師ネットワークによる本ツールの活用研修会実施、校内会議で活用できる研修動画等)。 • WEB上でデジタル帳票「QUクイックシート」の閲覧も可能(図書文化の展開する教育プラットフォームへの登録が必要)。
<p>設問数</p>	<p>Q-U小学1～3年用 21問 Q-U小学4～6年用 23問 hyper-QU小学1～3年用 33問 hyper-QU小学4～6年用 39問 Q-U中学用 46問 hyper-QU中学用 64問 Q-U高校用 46問 hyper-QU高校用 79問</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="982 534 1286 608"> <p>学校生活意欲 プロフィール 小学校</p> </div> <div data-bbox="1307 534 1612 608"> <p>学校生活意欲 プロフィール 中学校</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="982 625 1286 936">  </div> <div data-bbox="1307 625 1612 936">  </div> </div>
<p>適用学年</p>	<p>小学校1～3年／小学校4～6年／ 中学校1～3年／高等学校1～3年</p>
<p>実施時間</p>	<p>約15分～20分間</p>
<p>実施頻度</p>	<p>年1回～2回</p>
<p>回答方法</p>	<p>マークシート方式 (小1～3年用は調査用紙への直接回答する方式)</p>
<p>価格(税込) ※1人1回あたり</p>	<p>小学中学用Q-U : 各350円(検査用紙125円+コンピュータ診断225円) 小学中学用hyper-QU : 各480円(検査用紙210円+コンピュータ診断270円) 高校用Q-U : 360円(検査用紙130円+コンピュータ診断230円) 高校用hyper-QU : 570円(検査用紙255円+コンピュータ診断315円)</p>
<p>HP</p>	<p>http://www.toshobunka.co.jp/books/feature.php?eid=7</p>

回答結果を受けて、複数の観点からみた個人の尺度が示される。

学級全体の様子が把握できる。(ドットは児童生徒一人ひとりを表す)

満足度尺度のモデル



05. ツール紹介③ ASSESS

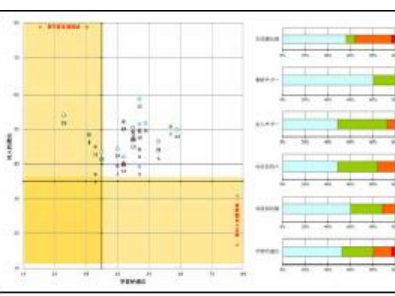
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 学校での適応感と全体的適応感とのズレから、把握が難しい家庭などの学校以外の場での適応感を把握可能。 学級安全調査(B-SAFE)とセットで調査することで、ネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、必要な指導や支援を考えることができる。 アンケート設問数が34問と少なく、短時間で実施が可能。
設問数	34問
適用学年	小学校3～6年(小1・2用は参考用で提供) 中学校1～3年／高等学校1～3年
実施時間	約10分間
実施頻度	1回でも可能だが、データに基づく教育実践促進のため年3回程度を推奨(5月末、11月、2月等)
回答方法	1人1台端末等を用いてWeb上で回答
価格(税込) ※1人1回あたり	Web版1人あたり：275円(税込) 3回セット：660円(税込) アセス・B-SAFE年間セット (アセス3回+B-SAFE3回)：1,100円(税込) 自治体での一括申し込みの場合、すべてこの価格の半額で提供
HP	https://aises.info/survey assess/#ass-7

学校環境適応感尺度「アセス」(ASSESS:Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres)は、①全体的な適応感である「生活満足感」 ②教師サポート ③友人サポート ④向社会的スキル ⑤被害感がないかという「非侵害的関係」 ⑥学習的適応 の6観点で構成され、子どもたちの学校における適応感を多面的に測定する。「ASSESS」は子どもたちの学校における適応感を多面的に測定するツールであり、「B-SAFE」はネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、いじめ対策に必要な指導や支援を考えるツール。

1. 個別の結果が数値と図で分かる



2. 学級の分布状況が一目で分かる



3. 学級全体で注意すべき児童生徒がだれでどこかが一覧でわかる

番号	名前	生活満足感	教師サポート	友人サポート	向社会的スキル	非侵害的関係	学習的適応	Chifusa
1		50	49	48	45	37		
2		33	59	52	57	55	52	0.0
3		54	54	48	55	57	50	0.5
4		50	55	61	54	44	36	1.3
5		30	45	40	33	45	38	1.0
6		52	47	47	49	52	58	1.0
20		49	48	47	48	47	48	0.0
21		32	30	43	52	40	40	0.0
22		60	53	54	47	52	58	0.5
23		31	48	48	49	47	47	0.5
24		55	54					
25		32	30					
26		83	55					

● 百分が、偏差値40-50
● 百分が、偏差値30未満
● の児童生徒はでたらめ

個別支援か集団支援か
注意すべき児童生徒の数がすぐわかるので個別支援だけがいいか、集団支援が必要かすぐ判断できる

4. 特徴と対応策をまとめて表示

05. ツール紹介⑤ 子どものための「学校風土調査」

特徴

文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」で科学的研究を経て開発された「日本学校風土尺度」をベースとした調査であり、①学校での安全性(安全、決まり)、②教えと学び(授業、こころの教育)、③関係性(子ども同士、子どもと先生、子どもと学校、子どもと集団(多様性・人権))、④環境面(物理的環境、地域・保護者)の4観点から構成されている。

- 「日本いじめ尺度」に基づくいじめ調査も同時に実施可能。
- 結果と併せて、学校風土向上のための方法や教師トレーニングの提案を行う。
- 無記名回答のため、より正確な調査が可能。

エビデンスに基づく各学級や学校の様子が変わり、前回調査との比較を通して学級運営等を見直すことにつながる。

設問数

32問(いじめ調査を含む場合は45問)

適用学年

小学校1年生～中学3年生

実施時間

約20分～40分間

実施頻度

年2回を推奨
(3回以上については応相談)

回答方法

Web回答、無記名式(共用端末利用可能)
※無記名回答のため正確な調査が可能。

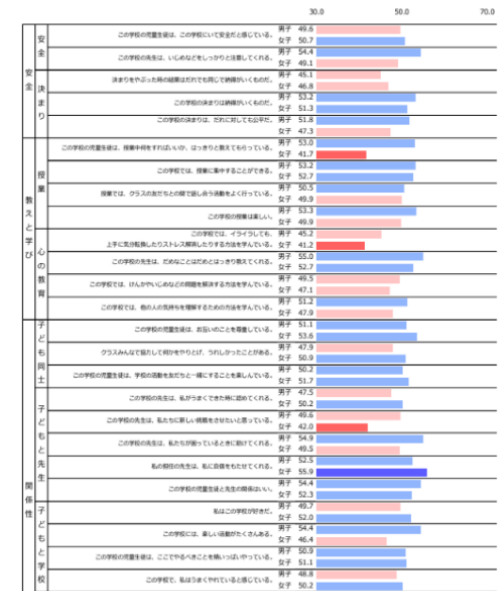
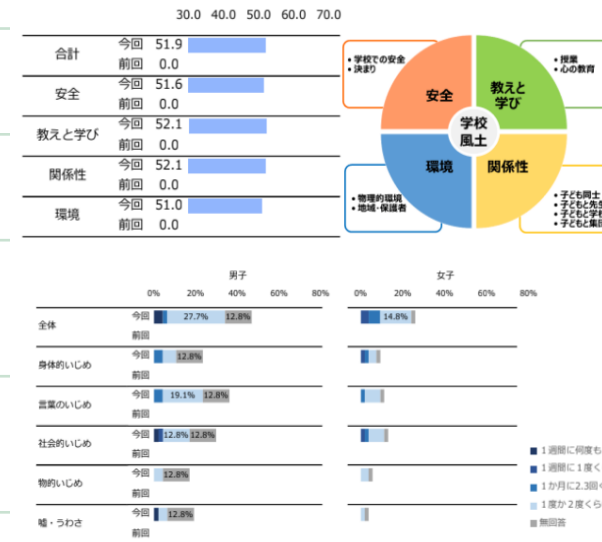
価格(税込)

年間1回：1校当たり5万円
年間2回：1校当たり10万円 ※3回以上は応相談
同社提供の心身健康観察アプリ「デイケン」とメンタルヘルス調査「NiCoLi」(年間12回まで)を併用した3ツールによる多面的アセスメントセットは月額100円(税込)／人(研修ビデオ視聴も付属)

HP

<https://kodomolove.org/schoolsupportprogram/schoolclimate>

合計得点と4つの側面の平均との比較



06.試験的な導入等

- まずは試験的に狭い範囲で運用してみて、全校導入できないか。
- きちんとメリットとデメリット等を確かめたい。
- 少し手間がかかってもいいから、費用を抑えて実施できないか。
- 本当に効果があるのだろうか。
- 子どもたちにとって、どんないいことがあるのだろうか。

ASSESS



書籍「ダウンロード版 アセスの使い方・生かし方」(2,750円 税込 ほんの森出版)を学年で1冊購入し、学校でデータ入力を行えば、分析データを出力できる。その場合は書籍代以外の費用はかからない。

分析を依頼する場合は先述した費用が発生するが、学級全体の把握が容易な「一覧表」と、具体的なデータの読み方を解説したWeb版専用の「学級診断シート」がつく。

各帳票の読み取りが不安といった悩みに対しては、別途有料のコンサルテーションで対応可能。

Q-U



Q-Uは学校による手採点が可能であるため、検査用紙のみの購入で導入が可能。
また、決まったプラン等を設けておらず、自治体予算で実施、学校の独自予算で実施等、実施主体によって様々な導入方法があり、ニーズに合わせることができる。

シグマ検査



1校につき1回利用できる無料の体験版がある。同社で集計後、教師用個人票と学級一覧表(I)のみ提供される。実施時期は9月～1月。
集計結果を適切に分析するためのオンライン解説会を随時実施。

i-check CBT



Web回答の「i-check CBT」は、実施時間、集計時間ともに短縮でき、記入式よりも20円安く導入が可能。

total ID(東京書籍の共通アカウントシステム)によって、i-check CBTが様々な教育コンテンツやサービスと紐づくので、調査→分析→学習・指導がシームレスになる。

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/spf/myassessment/index.html>

子どものための「学校風土調査」



文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」で科学的研究を経て開発された「日本学校風土尺度」をベースとした「子どもの発達科学研究所」の調査プロダクト。

①学校での安全性(安全、決まり)、②教えと学び(授業、こころの教育)、③関係性(子ども同士、子どもと先生、子どもと学校、子どもと集団(多様性・人権)、④環境面(物理的環境、地域・保護者)の4観点から構成されている。無記名回答のため、より正確な調査が可能。

<https://kodomolove.org/schoolsupportprogram/schoolclimate>

07.関連通知の紹介

児童生徒の自殺予防に係る取組について(通知)(令和5年7月10日)

1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進



- 趣旨**
- ・ こどもの自殺対策緊急強化プラン(令和5年6月2日) 1人1台端末の活用等により、自殺リスクの把握や適切な支援につなげるため、有償・無償で利用できるシステムやその活用方法、マニュアル等を整理・作成し、全国の教育委員会等に周知し、全国の学校での実施を目指す。
 - ・ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)(令和5年3月31日) 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進とされており、これらを踏まえ、1人1台端末を活用した児童生徒の心や体調の変化の早期発見や適切な支援につなげるためのシステム・マニュアル等について、下記の通り整理した。

無償

会社名	システム名	機能	機能詳細
Google	Google フォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 ・相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート機能(健康観察に活用) ・記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・Google スプレッドシート等へのデータのエクспорт ・Google Apps Script を利用したアラート機能等の実装
Google	Looker Studio 【Google】Looker Studio in a minute -YouTube	<ul style="list-style-type: none"> ・データの可視化 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google スプレッドシート等のデータソースから表やグラフ等を作成し、データを可視化 ・データの自動更新や様々なフォーマットのグラフにより、多様な角度からの迅速な分析が可能に
Microsoft	Microsoft Forms	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 ・相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート機能(健康観察に活用) ・記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・Microsoft Excel へのデータのエクспорт ・Microsoft Excel のマクロによるアラート機能
Microsoft	Reflect 【Microsoft Teams for Education】Reflect - YouTube	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の質問項目を選択して、アンケートを簡単に作成 ・文字だけでなくキャラクターを使った選択肢 ・健康観察等に特化し、Microsoft Formsをより簡易に利用

Google Looker Studio 活用事例 (埼玉県久喜市)

いじめアンケート(Google フォームで実施)や、学校生活アンケートの結果を表やグラフ化し、フォローが必要な生徒をピックアップしたり、クラス全体の状況を把握している。

Microsoft 365 Education 「Reflect」 活用事例 (愛媛県松山市)

Reflectで毎日の心の状態を把握して、生徒の小さな変化やSOSをキャッチし、支援に生かしている。クラスの状態を生徒と一緒に確認し、他者理解を促進している。

Google フォーム、Microsoft Forms 用いた健康観察・相談窓口の作成方法([リンク](#))
Looker Studio、Reflect の活用事例([リンク](#))



1人1台端末を活用した 健康観察・教育相談システム一覧

令和5年7月

初等中等教育局児童生徒課

1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進



文部科学省

趣旨

- ・ **こどもの自殺対策緊急強化プラン（令和5年6月2日）** 1人1台端末の活用等により、自殺リスクの把握や適切な支援につなげるため、有償・無償で利用できるシステムやその活用方法、マニュアル等を整理・作成し、全国の教育委員会等に周知し、全国の学校での実施を目指す。
- ・ **誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）（令和5年3月31日）** 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進とされており、これらを踏まえ、1人1台端末を活用した児童生徒の心や体調の変化の早期発見や適切な支援につなげるためのシステム・マニュアル等について、下記の通り整理した。

無償

会社名	システム名	機能	機能詳細
Google	Google フォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察 ・ 相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート機能（健康観察に活用） ・ 記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・ リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・ Google スプレッドシート等へのデータのエクスポート ・ Google Apps Script を利用したアラート機能等の実装
Google	Looker Studio 【Google】Looker Studio in a minute -YouTube	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの可視化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Google スプレッドシート等のデータソースから表やグラフ等を作成し、データを可視化 ・ データの自動更新や様々なフォーマットのグラフにより、多様な角度からの迅速な分析が可能に
Microsoft	Microsoft Forms	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察 ・ 相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート機能（健康観察に活用） ・ 記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・ リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・ Microsoft Excel へのデータのエクスポート ・ Microsoft Excel のマクロによるアラート機能
Microsoft	Reflect 【Microsoft Teams for Education】Reflect - YouTube	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の質問項目を選択して、アンケートを簡単に作成 ・ 文字だけでなくキャラクターを使った選択肢 ・ 健康観察等に特化し、Microsoft Formsをより簡易に利用




Google フォーム、Microsoft Forms 用いた健康観察・相談窓口の作成方法([リンク](#))

Looker Studio、Reflect の活用事例([リンク](#))

1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進

有償

※使用機能、使用する組織等の規模によって金額は変動する。

会社名	システム名	料金（生徒1人当たり月額） （税込）※	機能	機能詳細（他の機能含む）
一般社団法人 RAMPS 	RAMPS（ランプス） https://ramps.co.jp	18.3円（年間200円） + 1学校あたり基本料 年間7万円	・健康観察 ・相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺リスク評価を含む心身不調のスクリーニング指標を中心に構成（国内外研究知見を参考に） ・1次検査は子どもが一人でそと端末回答。2次検査では教員が端末の質問文を参考に詳しく問診 ・自殺リスクは4段階評価。「高リスク」判定の場合、予め登録された関係者に即時アラート通知 ・データ分析・可視化・自動レポート作成機能を充実。自殺リスクが高まる時期や学校の個別傾向等をダッシュボードで提示 ・東京大学での研究をもとに開発されたシステム。研究・試行段階含め全国の学校で8年間の教育現場への導入実績
公益社団法人 子どもの発達科学研究所 	デイケン（デイリー健康観察） https://kodomolove.org/school_support_program/tool_dayken	応相談 ※『デイケン』『NiCoLi』『学校風土調査』のセット価格は100円（年間契約）	・健康観察 ・相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝1分程度の簡易な入力で、子どもの心身の状態を把握し、必要な支援に早期対応が可能 ・研究成果をベースに、最適なタイミングで支援アラートを発出できるよう、常にバージョンアップ ・「相談ボタン」で、声に出せない子どもたちのSOSもキャッチアップし、担当、学校へ伝える ・弊所他ツールと連携し、多面的なアセスメントを実施。子どものメンタルを調査するWEBアプリ『NiCoLi』と併用することで、子どものメンタル状態についてより深く知ること、また、子どもが「学校の雰囲気」や「いじめ」について答える『学校風土調査』も組み合わせることで、子どもを取り巻く学校環境について知ることができ、学校がどのような対応、支援をしていくべきかを探ることが可能
公益社団法人 子どもの発達科学研究所 	NiCoLi（こころの健康観察ニコリ） https://kodomolove.org/school_support_program/tool_nicoli	50円 ※月1回、年間12回まで実施可。 ※『デイケン』『NiCoLi』『学校風土調査』のセット価格は100円（年間契約）	・健康観察 ・相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・早期兆候を示すメンタルヘルスの不調を科学的根拠を元にスクリーニング ・生徒個別のフィードバックシートで、児童生徒が自身の状態を把握したり、保護者との共有も可能 ・科学的根拠に基づく質問、及び即時フィードバックが可能。追加アセスメント、フォローアップも用意 ・子どもたちの回答後すぐに分析結果を知ること、早期介入を実現。深刻化を防止 ・科学的根拠に基づく簡便なシステム。10分～15分程度で回答が可能。児童生徒の負担が少ない ・他ツールと連携し、多面的なアセスメントが可能。『デイケン』と組み合わせることで、支援ニーズに対して早期介入。『学校風土調査』も組み合わせることで、学校がどのような対応をしていくべきかを探る

※使用機能、使用する組織等の規模によって金額は変動する。


会社名	システム名	料金（生徒1人当たり月額）（税込）※	機能	機能詳細（他の機能含む）
 スタンドバイ株式会社	シャボテンログ https://shabotenlog.jp/	応相談	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 相談窓口（学校内） 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、こころとからだの状態を4段階で記録する「こころとからだの健康観察」機能 先生やスクールカウンセラー等周囲の大人へ相談希望を出せる「話したいボタン」機能 子どもが、自身の状態をグラフ等で振り返り自己管理能力を高める「フィードバック」機能 アンケートにより、深刻ないじめ状況にある子どもを先生が把握できる「いじめリスクアセスメント」機能
 スタンドバイ株式会社	STANDBY https://standby-corp.jp/products/	応相談	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口（学校外） 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ等で悩んでいる時に、一人一台端末やスマートフォンから、自治体や学校が設けた専門の相談員に匿名で報告・相談することができる機能 STANDBY導入校へ、脱いじめ傍観者教育授業を実施。授業内でアプリの活用方法を説明する「SOSの出し方教育」も行う
 東京メンタルヘルス株式会社	スクールコンケア https://t-mental.co.jp/school/concare/school	応相談 ※プランによる例) 1校当たり月額5,500円～（300名の学校で1人当たり月額18.3円～）	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の気分を6種類のお天気マークで記録し、気分変動した児童生徒を自動検知して、担任やカウンセラー等に自動メール報告。同時に本人にも相談案内メールが自動送信され相談促進が可能 個人、クラス、学年、カレンダー別で閲覧、自分自身の経年データを閲覧、メモ日記、打刻忘れアラート、毎日の打刻時に元気が出るメッセージをランダム表示(ios、android対応)などの機能 講師派遣による心の授業、気分の変え方など30種類の教育動画提供可、コンディションケアを理解したカウンセラーを定期的に派遣、メール・SNS等によるアウトリーチ声掛けサポートを実施可、PマークとISMS認証を取得。300名以上の心理士や監修医師が所属。
 株式会社マモル	マモレポ https://mamor.jp/mamorepo/	応相談	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> マモレポポスト:いじめ等の悩みを24時間児童生徒のタイミングでいつでも学校へオンライン投函可能 マモレポメッセージ:いじめ等の悩みをいつでもオンライン相談可能。外部相談員（教育委員会やカウンセラー）が数日以内に回答。双方向のやりとりができる機能 小学校低学年の児童にもわかりやすいデザイン。相談内容を「仲間外れ」や「言葉の暴力」などイラストで表示 自治体ごとの細かいカスタマイズにも対応可能。マモレポのTOPページには教材（読み物）を掲載でき、児童生徒にいじめの定義の理解を促す

※使用機能、使用する組織等の規模によって金額は変動する。

会社名	システム名	料金（生徒1人当たり月額）（税込）※	機能	機能詳細（他の機能含む）
株式会社 ミライト・ワン・システムズ 	コンレポ https://www.mirait-one-systems.co.jp/solution/solution-conrepo.html	応相談 例) 20円～100円（年間契約）	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインで児童・生徒の健康をサポートし、教員の負担を軽減することを目的に開発された教育現場向けのクラウド型・健康管理サービス。入力状況一覧や月別集計など用途に合わせた多彩な集計機能を搭載 生徒がスマートフォンやタブレットなどで簡単なアンケート（体温、目覚め、気分など）に日々回答することで、生徒自身の心身の変化を自覚させることができるほか、学校で適切な支援策を迅速に図ることができるよう、生徒の心身状況を日々把握することが可能
株式会社 リーバー 	LEBER https://leber.jp/documents/leber_system_summery.pdf	22円～	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 相談窓口（プランによる） 	<ul style="list-style-type: none"> こころの健康観察：毎日の気分チェック/定期のメンタルヘルスチェック/フリーコメント入力/スクールカウンセラー予約希望 からだの健康観察：頭痛、腹痛、発熱、夜眠れない等の選択式/フリーコメント入力 オンライン医療相談：24時間365日医師が回答/チャットボット問診等で心身の症状を相談 出欠席連絡：なりすまし欠席防止機能/部活動外部委託先共有機能/プール・マラソンカード メッセージ・アンケート配信：クラス・部活・個別等/既読・未読/リマインド送信/PDF等添付 教育委員会専用管理画面：学校・保護者へのメッセージ配信/各学校の情報閲覧・管理
株式会社 EDUCOM 	スクールライフノート https://sweb.educom.co.jp/weblog/files/educomhp/doc/713/1486.pdf	応相談 ※校務支援システムとの連携などによって変動するため	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の心情を4つの天気で記録し、気持ちの自己調整と先生からの適切な早期支援を実現 体調や体温、就寝・起床時間など日々の生活リズムに関する情報が登録可能 相談したい悩みがある場合、毎日使う画面から簡単に任意の先生を選んで相談内容を送信 時間割共有や連絡帳・生活ノートとしての機能も備え、日々の学校生活の中で無理なく活用可能 校務支援システムとの連携により、校務ダッシュボードで学級や子どもの状況をより深く分析・共有
株式会社 LoiLo 	ロイロノート・スクール https://n.loilo.tv/ja/ https://help.loilonote.app/--5f8567143f41ab0022fa9651	応相談 ※導入初年度無料	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察 相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> 出欠席状況、検温記録の提出・確認 自由記述による児童生徒からのコメントの送付 児童生徒対象のアンケートの実施 毎日の振り返りの提出やフィードバックなどが可能

※使用機能、使用する組織等の規模によって金額は変動する。



会社名	システム名	料金（生徒1人当たり月額） （税込）※	機能	機能詳細（他の機能含む）
株式会社 Welcome to talk 	スクールメンタルヘルスケア https://welcometotalk.co.jp/service_list	220円	・健康観察 ・相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・ココモニ：1日1回、声を送ってココロの状態をモニタリング。テクノロジー（音声感情センシング）を活用してSOSサインを逃さない。相談希望時のアンケートはWHO-5（精神的健康状態表）を採用 ・テキスト健康相談：“より気軽に手軽に相談したい”に応えるテキストカウンセリング。マイページから何回でも、利用可。24時間いつでも受付。営業日3日以内に心理士回答 ・オンライン健康相談：“もっとじっくり、もっと深く相談したい”に応えるオンラインカウンセリング。相談1回=45分。選べる専門家（心理士・精神科医・児童精神科医）。両日中に報告書を提出。教員の負担軽減を図りながらきめ細かな支援を実現